

日本ロールシャッハ学会 第14回研修会（2022年度） 第一号通信
心理アセスメントのやくめ: 事例を通して学びあう
（申込締切を2023年3月15日まで延長します！）

公認心理師法が施行され5年が経過しました。心理士が活躍する分野は少しずつ拡がりを見せています。そのような中で、心理アセスメントはどのようなやくめ（役目）を果たしていけばよいのでしょうか。大六（2019）は、ウェクスラー式知能検査について「知的障害や学習障害の判定道具から、問題（主訴）の原因および対応を明らかにする道具へと変化しました」と述べています。多職種連携やチーム医療・チーム学校の一助となるためにも、こころの内側を丁寧に理解して、クライアントやその関係者に深く寄りそう心理アセスメントが必要です。

ロールシャッハ法をはじめ心理検査は、面接や観察だけでは深く知ることができない心理的側面に光を当てます。ある集団の中での位置づけを示すための、客観的な道具でもあります。フィードバック面接により、メンタライジングと新たな自己理解がもたらされます。さらに投映法として個人的な体験を引き出し、その人のナラティブを語ることもしばしばです。本研修会では心理アセスメントのライブスーパーヴィジョンやウェクスラー式知能検査、さらにロールシャッハ法を含んだ事例検討を通して、あらためてそのやくめを考えます。

会場の高松シンボルタワーは交通至便で、天気が良ければ快速マリンライナーから瀬戸内海の多島美を楽しめます。高松空港からのリムジンバスも発着します。玉藻公園（高松城址）の桜の時期と重なるうどんの街で、みなさまのお越しをこころよりお待ちしております。

2022年9月吉日 香川大学医学部臨床心理学科 橋本忠行（準備委員長）

◇ 研修会プログラム ◇

日時：2023年3月19日（日） 10:00 - 16:30

場所：高松シンボルタワー（香川県高松市サンポート2-1）国際会議場・展示場 (<https://www.symboltower.com>)

受付	9:30 ~ 10:00	
分科会	10:00 ~ 14:20	(12:00-13:00 昼食) (14:20-14:40 休憩・移動)
事例検討	14:40 ~ 16:30	

定員：100名（各分科会50名程度）

受講資格：「臨床心理士」「公認心理師」有資格者、医療・教育・福祉・司法・産業分野の専門職もしくは大学院生で
守秘義務の課せられている方。

参加費：日本ロールシャッハ学会正会員：6,000円 非会員：7,000円 大学院生：2,000円

*日本臨床心理士資格認定協会の研修ポイント（2ポイント）が認められています。

◇ 参加申し込みフォーム ◇

日本ロールシャッハ学会HP (<http://jsrpm.jp>) の「研修会・研究会」ページ、または右のQRコード (<https://forms.office.com/r/Xr2eKqRGGn>) よりお申し込みください。各コースの受付は先着順で、**申込と振込の期限は2023年3月15日（水）**です。ご案内はメールでお知らせいたします。



【ゆうちょ銀行】（普通 記号12400 番号02044831）「ニホンロールシャッハガツカイシュサイケンシュウカイ」
参加費の振り込みをもって申込み完了とします。お振込元の口座名と参加者さまのお名前が異なっている場合は、参加申込フォームの備考欄にてお知らせください。コロナ感染等の影響による中止の場合はメールでお知らせし、参加費をお返しします。

◇ 分科会/事例検討のテーマと講師 ◇

コース A または B いずれかの分科会にご参加いただきます。事例検討は合同です。会場の都合上、ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。

【分科会：コース A】 心理アセスメントのライブスーパーヴィジョン 高橋 靖恵 先生 (京都大学)

心理アセスメントが適切に心理療法に活かされるために、実施からフィードバックまでがスーパーヴィジョンの対象となります。また研修を積み重ねていきたいと考えている若手の臨床家が、現場で新人指導に当たることも想定されます。本コースでは、ライブスーパーヴィジョンを通して、現場の指導者を含むスーパーヴァイザーとスーパーヴァイジー双方を対象に研修機会を提供できればと考えます。ロールシャッハ法を含むテストバッテリーを組んで実施された心理アセスメントの素材を提供してくださる方を、広く募集します。

対象は、指導者としての活動をされている先生方です。ここでいう指導者とは、臨床実践現場での実習指導者の先生方、大学・大学院でアセスメント教育を担当する先生方、心理アセスメントのスーパーヴィジョンを実践されている先生方を指します。各所での指導者の先生方に集って頂きまして、疑問や問題点を話し合えたら幸いです。

【分科会：コース B】 ウェクスラー式知能検査を用いた治療的介入:協働モデル 隈元 みちる 先生 (兵庫教育大学)

子どもの心理アセスメントで最も活用されることの多い検査の一つであるウェクスラー式知能検査を、治療的に(あるいはその入口として)用いることができれば、その後の心理支援を促進することにつながるのではないのでしょうか。本研修では「親との協働的な WISC-IV の結果のフィードバック面接：CFP」モデルを紹介しながら、ロールプレイを通して協働的なフィードバックを体験して頂く機会を提供できればと考えています。WISC-IV、WISC-V の心理アセスメントの素材(事例の概要、検査結果)を提供してくださる方を募集いたします。(2 事例を取り上げることを考えております。応募多数の場合は、事例の多様性などを考慮して決めさせていただきます。)

対象は、実際に WISC-IV、WISC-V を心理アセスメントとして使用されている方です。お互いの経験を共有し、学びを深めていければ嬉しく思います。

【事例検討】メンタライジングと心理アセスメント

事例(複雑性悲嘆の協働的/治療的アセスメント):橋本 忠行(香川大学)

指定討論:上地 雄一郎 先生(岡山大学) 司会:高橋 昇 先生(愛知淑徳大学)

心理面接でもなかなかふれることができない深い悲しみがあります。複雑性悲嘆のセラピーでは「故人に対する感情が肯定的であれ、否定的であれ、あるがままに体験しても大丈夫で、やがては揺れる感情も落ち着きどころを見出す」(Worden, 2008) プロセスが大切です。治療的アセスメント (Finn, 2007) がはたすやくめについて、事例を通して考えます。

指定討論にお迎えするのは、本邦におけるメンタライジング・アプローチの第一人者である上地雄一郎先生です。フィードバック面接によりもたらされる新たな自己理解、感情への気づき、そして査定者の関わりなど、さまざまな視点から心理アセスメントとの関係を検討します。

□ 分科会検討事例の募集について

A コースの検討事例を 1 件、B コースの検討事例を 2 件募集いたします。

事例発表希望者は事例の概要を 200 字程度でまとめて、**2023 年 1 月 20 日 (金)** までにメールにてお申し込みください。(宛先: rorschach.kagawa2022@gmail.com)

なお、メールには①所属、②連絡先、③希望コース(コース A の場合は合わせてロールシャッハ経験年数)を記載して、個人情報に配慮の上、Microsoft ワード形式にてパスワードを設定してお送りください。

お問い合わせ先: 日本ロールシャッハ学会 第 14 回研修会 事務局 (rorschach.kagawa2022@gmail.com)